

仙台北部道路

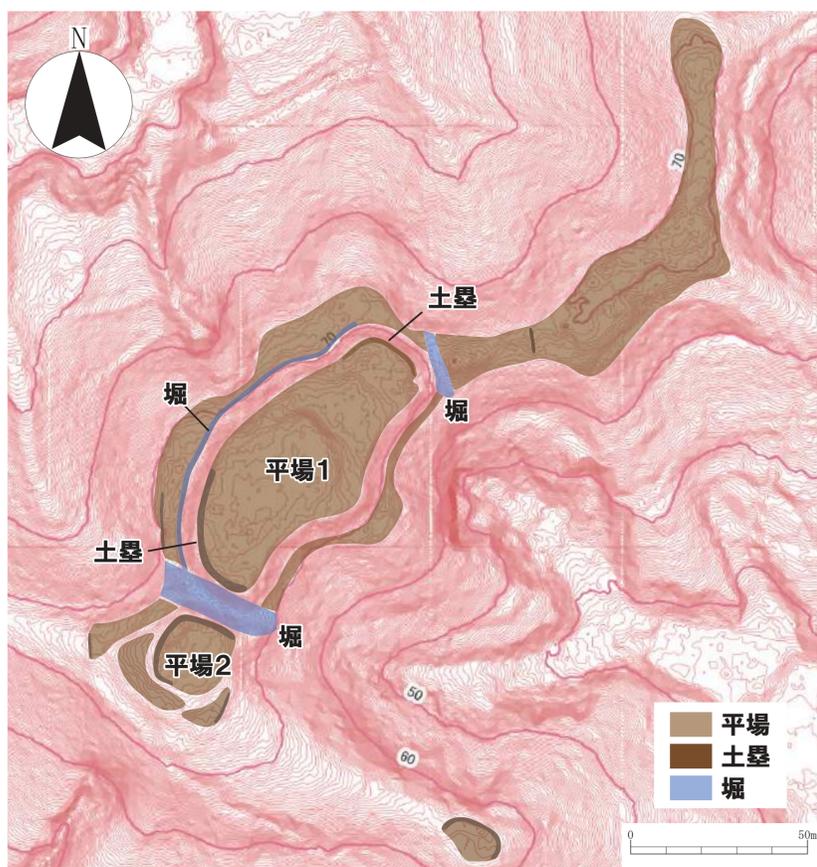
富谷市成田地区



遺跡遠景（北から）

よみがえった！中世の山城

⑥兵六館跡（富谷市西成田）



富谷市中央部の標高約 80mの丘陵頂部にある室町時代ころの山城跡です。

令和6年度に、遺跡の全容を明らかにするための発掘調査が、富谷市教育委員会により行われています。

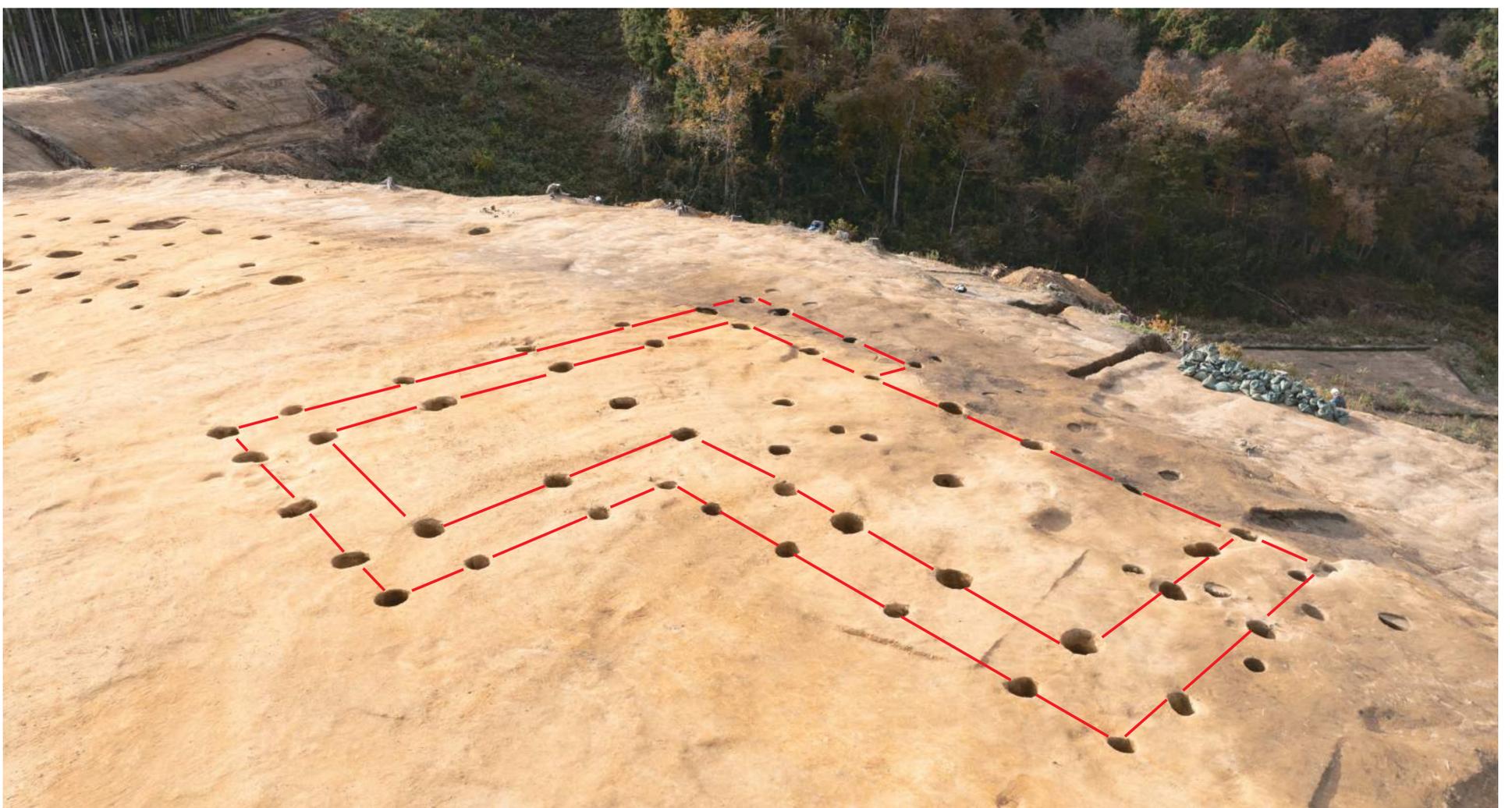
調査の結果、頂部には平らにつくり出した平場や、そのまわりを囲む土塁や堀がみつき、堅固な山城の様子が明らかになりました。また、平場では大型の掘立柱建物跡が複数みつかっています。

山城の全容が判明した調査は、宮城県内では非常に少なく、貴重な事例となりました。



▲兵六館跡の構造（南西から）

最も面積が広い平場1は南北約80m、東西約38m、次に広い平場2は南北約21m、東西約17.5mの規模があり、その間には大規模な堀がありました。城の北側には門跡や堀を渡るための橋脚跡きょうきやくなどがみつき、城の出入口であったと想定されます。平場のまわりには土塁どるいや堀が巡らされていました。



▲最も大きい掘立柱建物跡（北東から）

最も大きい掘立柱建物跡は、平面形がL字形で南北に15m、東西に12.8mの規模がありました。柱穴は約50個みつかっており、平面形は円形で、大きいものは直径が約65cmありました。



▲平場1と2の間の堀（西から）

平場1と平場2の間に幅約12m、高さ最大4.5mの大規模な堀があります。尾根を分断することで敵が尾根伝いに侵入してくることを防ぐ目的があったと考えられます。



▲平場1の南西斜面（南から）

土塁上部から堀の底面まで約6mありました。高低差をつくって、守りを固めていたと想定されます。



▲城の出入口（南東から）

門や橋脚は、柱穴同士の横幅が東西に約1.8mと狭く、一度に大勢の人が入れないようにつくりであったと考えられます。

Rengemon Chat

他にも全域を調査した山城はあるの？



ちょうさいんさん

県内には、くまがいでて熊谷館跡（富谷市）、くまの どうおおだて熊野堂大館跡（名取市）、に いだたて新井田館跡（南三陸町）などがあります。兵六館跡もそうですが、広大な範囲の調査のため、山城全域を調査すること自体がとても珍しいものです。



れんげもんちゃん

協力：富谷市教育委員会